

第1回

あび中

社会科通信

2019/5/15

はじめに

社会科をもっと深く・楽しく・充実したい！そんな思いでつくる、この社会科通信。不定期発信ではございますが、たくさんの情報をつめこんで、皆様にお届けします。少しでも多くの人に読んでいただけるよう、内容も充実させたいと思っております。そこで、この社会科通信を作成するにあたり、保護者の皆様へご理解ご協力いただきたいことがございます。この通信では、「我孫子中学校の社会科学習で子どもたちがどのような取り組みをしているのか」また、「授業中の子どもの様子」などを発信することがあります。そのため、授業の風景や子どもたちの発表資料・ノートなどを、画像資料として掲載する予定です。もし、気になることなどございましたら、社会科教科担当までご連絡くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

* ニュースの話題から調べよう *

2年生は現在、歴史的分野を学習中です。4月末には、学習している戦国～安土桃山時代から少し離れ、最近のニュースで話題になった人物や建造物についての調べ学習を行いました。

5年後に発行される新紙幣のデザインに決まった北里柴三郎、津田梅子、渋沢栄一について。新紙幣裏面の富嶽三十六景や東京駅について。ノートルダム大聖堂やブラックホールについて…。班ごとにタブレットを使って調べ、発表資料を仕上げました。まとめの時間には、それぞれにわかりやすく発表してくれました。

新紙幣が使われる頃には成人しているみなさん。これからも世の中の動きに興味を持ち、どんどん調べて考えを深めていきましょう！



ご近所フィールドワーク ～万葉集をめぐる～

我孫子中学校のある住吉区は古くから栄えていた場所です。住吉大社付近まで海がせまり、海岸線には白砂青松が続く景勝の地だったそうです。奈良時代に成立した『万葉集』にも住吉区が登場します。その当時は住吉のことを「すみよし」ではなく、「すみのえ」と呼んでいました。当時、住吉区はどのように歌に詠まれたのでしょうか。

「住吉(すみのえ)に 斎(いつ)く祝(はふり)が 神言(かむごと)と

行(ゆ)くとも 来(く)とも 船は早けむ」 多治比真人土作

この歌は751年、遣唐使派遣にあたり藤原仲麻呂邸で送別の宴が催されたときの歌です。作者が航海の安全を祈願したところ、無事に旅を終えるという御神託が出たというのです。遣唐使、遣隋使はまず住吉大社で航海の安全を祈願していました。

「悔(くや)しくも 満ちぬる潮(しほ)か 住吉(すみのえ)の

岸の浦みゆ 行かましものを」 作者未詳

美しい砂浜を歩きたかったのに残念という思いを詠んだ歌です。今私たちがいる住吉区を万葉集の時代の人々が歌に詠んでいるというのは感慨深いものですね。

令和元年

「時に、初春の令月にして、気淑く風和らぎ、梅は鏡前の粉を披き、蘭は珮後の香を薫す。」『万葉集』巻五[43]の「梅花詠州二首并序(梅花の歌 三十二首、并せて序)」にある一文です。この序文は天平2年1月13日、大宰帥(大宰府の長官)である大伴旅人の、現在の太宰府市付近にあったとされる邸宅で催された宴の様子を表しており、「梅花の宴」とも呼ばれています。作者については、旅人や山上憶良らが挙げられています。

日本の年号の最初は「大化」で、令和は248番目の年号になります。今まで年号は漢籍(中国の古典)から選ばれていましたが、令和は初めて日本の古典から選ばれたということも話題になっています。年号は漢字2字で表されるものが多いのですが、奈良時代には4字の年号もありました。また、年号に最もよく用いられた感じは「永」になります。

改元是天変地異やめでたいことを記念して行われたこともあります。白い亀が見つかったことで改元した記録も残っています。今までで最も長く使われた年号は「昭和」で64年まであります。

令和には、「人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つ」という意味が込められています。晴らしい時代になるように期待したいですね。